

U-20/22 審判員 2025 年度 ナショナルトレセン U-14 前期

参加レポート

広島県 岡崎啓太郎

【日程】 5/22(木) 14:00 集合 16:00 キックオフ (20 分×3 試合) 19:00 解散
5/24(土) 14:00 集合 16:00 キックオフ (20 分×3 試合) 19:00 解散
5/25(日) 8:00 集合 9:30 キックオフ (25 分×3 試合) 13:00 解散
※審判員はいずれかの日程で一日のみの参加

【会場】 J-GREEN 堺

【参加審判員】 小澤 拓夢 (静岡県)
小澤 陸央 (静岡県)
今田 來陽 (大阪府)
工藤 海斗 (大阪府)
岡崎 啓太郎 (広島県)
財津 友誠 (熊本県)

【インストラクター】 名木 利幸 氏
佐古 善紀 氏
中村 正光 氏
広岡 輝也 氏

【試合の振り返り】

試合前に名木氏から、U-15 日本代表の選考につながる場であるため、選手がプレーを最大限に発揮することができるよう審判員としてサポートしてほしい。また、その為にファウルを掴むことも大切だけど、ファウルではないという事を掴むためにプレーに近づくことも大切なことであるという話をされました。

試合は、20 分を 3 試合、主審を担当しました。

<良かった点>

- ・近い距離での争点の監視

攻守のトランジションの際に足を止めることなく動き出しを作ることで展開に遅れにくく、良い感覚を掴みながらポジショニングすることができた。

- ・アドバンテージの採用

コンタクトプレーが起きた際に、その事象に集中力を注ぎ込みすぎることなくファウルを

受けた競技者の向かうプレーの方向を意識することで、「選手の頑張り」を無駄にしないようなアドバンテージを採用することができた。

<今後の課題>

・広い視野の確保

視野の確保の仕方やタイミングが悪いため、ボールの展開に対してリアクションで反応する動き出しが多い。首振りや体の向きに工夫を加え、広い視野を確保することでボールの展開にスムーズに対応できるポジショニングを目指したい。

・受け手の情報を多く取り入れること

ボールの受け手のマークにつく相手競技者の状況まで見ておくことで、ボールの出先の予測がしやすくなり、よりスムーズにポジショニングすることができるようになる。

<まとめ>

この度は、U-20/22 審判員 2025 年度ナショナルトレセン U-14 前期に参加させていただきありがとうございました。今回の研修会で、スプリント力を自身の強みとして伸ばしていく部分だと感じました。また、ポジショニング面では視野の狭さなど課題が多く見つかったため改善していきたいと思います。

短い期間ではありましたが同世代の審判員との交流を通して、多くの刺激を受ける研修会となりました。今回の研修で学んだことを今後のレフェリングに活かし、成長に繋げることができるように今後も取り組んでまいります。

